

誌上ひとりワークショップ

シリーズ2

～ 家族の交流パターンを変える ～

岡田 隆介

広島市子ども療育センター精神科

前号で「誌上一人ワークショップ ～家族援助は街のアパレル～」が終わりました。今回から一人ワークショップの第二シリーズとして、SSTの手法を取り入れたライブ事例検討会をスタートします。また、しばらくおつきあいください。なお、事例はもとの内容に大きく手を加えて創作しています。

1. 導入

「まず簡単に自己紹介をしてもらいます。そして、全員に共通していることや当てはまるものを探してください。見るだけで分かるものとか、あまりに主観的なことはだめですよ」

「なにが見つかりましたか」

「全員、子どもが二人いることが共通していました。Twitter をしていること、docomo の携帯をもっていることも共通しています」

「属性のようなものはなんとなく分かってくるけど、行動特性のようなものは当たりをつけて尋ねないと見つからないでしょ？ということで、ジョイニングをかねて情報の種類と集め方を体験してもらいました」

2. ケースの決定

「今日、ここに10名の方が参加しておられます。みなさんは、全員、対人援助に関連したお仕事をしておられます。これからいろんなケースの話がでてきますが、それらについて一切漏らさないということを知っていただけたらと思います。はい、守秘義務を了承していただきました。ありがとうございました」

「さて、みなさんの胸の内には、いま気になっているケースがきっとあると思います。うまく信頼関係をつくれなとか、どう理解したらいいのかわからないとか、どんな支援ができるか見当がつかないとか。代表的なケースを一つ思い浮かべてください。ではそれを、順番にコンパクトにみんなに紹介して

ください。Cさんからいきますか、どうぞ」

「時間に余裕があれば、すべてをみんなで考えたいのですが、残念ながらそうはいかないので一例だけ選んでください。すべてを聞き終えて、今日、どの話を取り上げるか。話し合っ誰のケースかを決めてください」

「決まりました？ Aさんのケースですか？わかりました。では、Aさんに詳しくそのケースを説明してもらいます。前に出てもらっていいですか？相談内容、家族状況、初回面接の状況、面接の経過、現在の状況、いま心にひっかかっていること等を、30分くらいでお願いします」

3. ケースの概略

家族構成：現在は母子二人の生活。

母親：31歳。3年前の離婚を巡るゴタゴタにより、抑うつ的となり精神科クリニックに通院。服薬中。入院歴はない。離婚後、生活保護を受給（現在も）。中卒後、家出し暴走族グループに入り、仲間宅を泊まり歩いた。その後、デリヘルやスタンド、居酒屋等で働く。本児の父親とはスタンドで働いていたときに知り合う。19歳で同棲、妊娠、結婚。27歳で離婚。その頃に実父が死去したこともあり、祖母と連絡をとるようになった。祖母との日常的なつながりはほとんどない。幼い頃から、短期だった実父の暴力を受けて育った。

本児：12歳（来談時）小6。小柄、散髪嫌いではぼさぼさの髪、風呂嫌いで不潔。ふてくされた表情をしているが、ときに緩むと可愛い。母親との衝突はあるが、他人に対する反抗的・攻撃的な態度はない。成績は常時下位、勉強は大嫌い。昼過ぎに起きてきて、明け方までTVゲームをする生活。いつも一人。小さいときから友達と遊ぶことを好まなかった。万引き等はなし。

兄：16歳。公立高校2年。小さいときから本児と相性が悪く、高校入学と同時に通いやすい祖母宅に。その間の交渉・決断は一人ですべて行った。母や祖母との関係は悪くない。成績良好。サッカー部で熱心に活動している。

父親：44歳、土木建設会社に勤務。幼少時より、言うことを聞かない本児を殴っていた。酒を飲んだときは、母親に対する暴力もあった。本児が小学校3年の頃、勝手に出て行ったきり戻らず、そのまま離婚。住居は分かっているが、連絡はとっていない。現在、生活保護受給。アルコール依存症。

父方親族：情報なし。

母方祖母：60歳。徒歩で20分くらいの所に借家住まい。パート就労、健康状態は良好。

夫（祖父）は3年前に死去。母親とは電話で話をする程度。兄は頻繁に出入りし、現在は居候。本児はあまり寄りつかない。

相談内容：「小6の長男が学校に行かず、夜通しネットでチャットやゲームをしている。また、昼夜を問わず自転車でフラフラ徘徊する。どうしたらいいか教えて欲しい。」

初回面接：初回面接：母親と本児（小6）が来所。待合室では二人でしゃべっている。清潔感はないが非行親和性も感じさせない。入室後、相談員と目を合わさず落ち着かない。質問には無言。たまに首肯。時折、母親の説明に反発し言い返す。母も負けずと大声でやりあう。そうこうするうちに、本児はふてくされて退室。母は止めない。力は母が勝っている印象。

経過：初回以後本児は来所せず、不規則な母親のみの来談となる（週一回の約束が月1回程度）。本児はもともとおとなしい子で、小1の頃から登校しぶりがあった。怠学傾向が顕著になったのは、小3の離婚の頃から。父親からは、尋ねられたことにはっきり返事をしないとよく殴られていた。止める母親にも手を上げていた（特に酔っているときなど）。兄はうまく立ち回り、父親に気に入られていた。

中学生になると、「早く食事をしなさい」「ゲームの音量を下げなさい」と注意すると興奮し、暴れてガラスを割ったりするようになる。足や肩を蹴られた母親が包丁を持って身を守り、近所の人やパトカーを呼んだことが何度かあった。警察官が来ると、本児はさっさと自分の部屋に引っ込んだ。母親は警察の介入を望まず、児童相談所の家庭訪問や一時保護も拒んだ。

中2になっても相変わらず昼夜逆転で、深夜までパソコンでゲーム・チャットをしている。一度、警察官がパトカーにのせて一時保護所に連れて行ったが、その日のうちに無断で帰宅。以来、警察も様子を見て帰るようになっている。

Aさんの気がかりな点：母親の要望に応える支援ができない。子どもにニーズがない。このままの形で相談を受けていていいのだろうかと迷っている。本児のアセスメントもできておらず不安（現状は、検査も受診も難しい）。警察・学校・児相との連携がうまく機能していない。

「はい、ありがとうございました。よく整理されていたので、とてもわかりやすかったです。それでは、Aさんの力になれるように、みんなで考えていくことにしましょう。まずですね、面接の様子という状況をロールプレイでやってみようと思います。クライアント、母親ですが、その役をしていただく方をAさんに指名してもらいます」

「(A) ええと、Bさんをお願いしていいですか？」

「(B) はい、やってみます」

「ありがとうございます。じゃあ、別室でBさんに最近の面接の様子を伝えてください。ロールプレイのイメージを共有できたらいいので、再現にこだわる必要はありません」

「打ち合わせの間に、みなさんにはお願いがあります。この後、ロールプレイを見て感想を言うわけですが、簡単なルールがあります。一点目はロールプレイの感想です。必ず、『～したのがよかった』『～しなかったのがよかった』という形で発表してください。二点目ですが、他の人の意見に対する感想は『そうそう、それに付け加えて～』という形でお願いします。

今日、Aさんだけでなくみなさんに知ってもらいたいのは、参加者の数だけ視点があり、考え方があり、可能性があるということです。正解がなんて気にしないでいいです、そんなものがあるのかどうかもわかりませんが、否定的なコメントや反対意見も要りません。では、よろしくお願いします。みなさんの発表はホワイトボードに書きます」

4．養護教諭Aさんのロールプレイ

「(T役) 夏休みはどんな様子でしたか？」

「(M役) この間教えてもらったNPOの塾に誘って見たんです。お昼が出るからって。そしたら、

週に一回、月曜日の昼食の時間だけ行くようになりました。食べるだけ食べたら、さっさと帰ってくるんです。わけがわからない、あれで意味があるのでしょうか」

「(T 役) 私は、家に閉じこもるよりずっと意味があると思います。こんなふうによくいと予想しておられたんですか？」

「(M 役) いいえ、まさか昼食で釣れるなんて、思ってもみませんでした。ただ、あいさつも会話もいっさいなしです。食事だけなんて、恥ずかしくないんですかね」

「(T 役) 家にずっといることに飽きたのかもしれないですね」

「(M 役) そういえば、8月のはじめごろにフラッとおばあちゃんの所に行きました。わたしは大歓迎なんですが、母はたいへんだったみたいです」

「(T 役) そこでも昼夜逆転に近い生活でしたか？」

「(M 役) ゲームを持ち込んでましたから、たぶん」

「(T 役) お年寄りにはガラガラした生活を好まないから衝突したのかもしれないですね」

「(M 役) そうなんです。もともと口うるさい人ですし、兄ともめたみたいで、4、5日して戻ってきました」

「(T 役) じゃあ、行くのも帰るのも自分で決めたということですね」

「(M 役) まあ、そういうことになります」

「(T 役) 帰ったとき、彼はなにか言ってましたか？」

「(M 役) 別に。あいかわらず深夜までネットして、昼ごろ起きてくる生活です。注意したらパトカーが来るようなことになるし、言わないとずっとあのままでしょうし、このままでいいのでしょうか。何かできることはないですか？」

「(T 役) お気持ちはよく分かりますけど、いまできることはなさっていると思います」

「(M 役) そうでしょうか、しんどいです、一緒にいるだけで」

「(T 役) あの、いまのままでいけないと思われるのは、特にどの部分ですか」

「(M 役) すべてです。学校に行かず、昼間寝て、夜はネット、注意したら暴れるし」

「(T 役) でも、最近はパトカーの回数がぐんと減っていますよね」

「(M 役) だからといって、何も変わってないんですよ」

「(T 役) 夜間徘徊しても犯罪を犯すわけでもないし・・・」

「(M 役) 先生、はっきり言って、あの子、おかしいくないですか？」

「(T 役) 別におかしいとは思いませんが、それとは別に、いつか専門医の意見も聞いてみたいとは考えています。タイミングを見て考えましょう」

5 . 感想

「ありがとうございました。拍手！お二人ともうまいですね」

「(A) Bさんが上手だから、雰囲気がよく出せたと思います」

「Bさん、どんな感想を持たれましたか？」

「(B) 最初は不安がいっぱいだったのですが、いま適切なことをしていると言い切ってくれたので、安

心しました」

「なるほど。では、みなさんの感想をうかがいます。さきほどの留意事項、『～したのがよかった』『～しなかったのがよかった』『そうそう、それに追加ですが～』を忘れないでくださいね」

「(C) Bさんも言ってましたが、いまやっていることが最適だと言われたのはよかったと思います。ウツがあるし、そこまで支えないと途切れてしまうような感じがします」

「(D) そのことの付け加えですが、“パトカーの回数が減ってる”と具体的にあげられたのは説得力があったと思います」

「(E) NPOの塾に連れて行ったこと、祖母宅に行ったことなどを肯定的にとらえているのがよかったと思います」

「(F) そうそう、祖母宅から帰ってきた決断をきちんと評価しているのがすごいと思いました」

「(G) ウツの母親を絶対に責めないという姿勢がよかったです。これまで子どもとバトルをしてパトカーが来たこともあったけど、母親失格なんかじゃないというメッセージが伝わってきました」

「(H) 診察や検査をすすめるタイミングが良かったと思います。突き放す感じがしませんでした」

「(I) “しんどいです、一緒にいるだけで”のあと、“いまのままでいけないと思われるのは、特にどの部分ですか”と具体的な話にもっていったのはスゴイと思いました。あそこで感情の話になったら、もっとしんどくなっていったかもしれません」

「(J) わたしも同じ感想を持ちました。一見、行き詰まっているように見えるけど、共感しながらいないに現状に意味や価値を認めていくと、収まりのいいところに落ち着いていくと、そんなふうに見えました。勉強になりました」

「ではAさん、みなさんの意見を聞いていかがですか？」

「(A) 母親の“これでいいのか、他にやらないといけないことがあるのではないか”という焦りは、わたしの気持そのものなんです。だから、みなさんに“それでいい”と言われて、すごく楽になりました」

「母親の気持ち、クライアントの気持ちを実感できた？」

「(A) その通りです。なにしろ切羽詰まった状況なので、共感するだけじゃなくある程度は自分の考えを率直に伝えよう意識しました。でも、いざとなったら難しく、受け止めるのがやっとだと思っていたのですが、いまはこれでよかったのだという気になっています。ほんとにありがとうございました(拍手)」

「はい。せっかくの盛り上がりですけど、ここでちょっと休憩を入れましょう。Aさん、Bさん、いったん役から抜けましょう。目を閉じて肩の力を抜いて深呼吸します。心の中でご自分の名前を呼んで返事してください。私が目を開けると言うと、すっかり役から抜けます。はい、目を開けてください。ではみなさん、このあとさらなる高みをめざして進みたいと思います」(続く)